

主 催：渡部昭男（研究代表者）大阪信愛学院大学教授／元神戸大学教授
基盤研究(C)課題番号 19K02864（2019-21年度）・22K02702（2022-25年度）

日 程：2025年7月5日（土）（開場 12:45）13:00～16:00 予定

企画テーマ：日韓/韓日対話 第9回企画

超少子化社会と教育問題

——金鉉哲氏（前韓国青少年政策研究院院長）及び
金明中氏（ニッセイ基礎研究所上席研究員）の報告をもとにした対話——

趣 旨：

科研費研究の一環で蓄積した寄稿論考を共有財産として、2021年から日韓/韓日対話を継続している。ところで、2008年をピークに日本の人口は減少し続けている。コロナ禍で少子化がさらに進み、合計特殊出生率は2023年「1.20」までに落ち込んだ。人口置き換え水準の出生率は「2.08」前後といわれており、「2.0～1.5」を「緩少子化」、「1.5」未満を「超少子化」という。このまま推移すれば、25年後の2050年台には人口1億人割れさえ予測されている。一方、韓国の特殊合計出生率は2023年「0.72」（2024年0.75に若干回復）であり、日本以上に超少子化の状況にある。超少子化の進行に教育問題はどのように関わっているのか、超少子化のもと国や自治体はどう対応すべきなのかを、お二人の論客の報告をもとに対話し、深めたい。

金鉉哲氏（キム・ヒョンチョル／前韓国青少年政策研究院院長）は、共著2020「韓国における超少子化現象と教育問題」『家族社会学研究』32(2)でこの問題を論じており、また科研費研究に論稿2025「デジタル・プラットフォームを活用した大学教育の無償化構想」を寄せている。金明中氏（キム・ミョンジュン／ニッセイ基礎研究所上席研究員）は単著2024『韓国における社会政策のあり方Ⅱ：韓国における少子化、格差、葛藤の現状』社会評論社を上梓しており、多数の論稿で少子化問題を扱っている。

司 会：渡部 昭男（大阪信愛学院大学／元神戸大学）

次 第：

13:00～ 開会挨拶・趣旨説明：渡部 昭男

13:05～ 金鉉哲(KIM, Hyun-Cheol)氏（前韓国青少年政策研究院院長）

話題提供「仮）超少子化現象は、韓国社会に毒か得か？ 大学無償化の構想につなげて」

寄稿論考「デジタル・プラットフォームを活用した大学教育の無償化構想」

日本語 <https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100493210>

韓国語 <https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100493209>

13:50～ 金明中(KIM, Myoung-Jung)氏（ニッセイ基礎研究所上席研究員）

話題提供「仮）少子化の進行状況とその影響：日本と韓国の出生率の差を考察する」

著書『韓国における社会政策のあり方Ⅱ：韓国における少子化、格差、葛藤の現状』

社会評論社：<https://www.shahyo.com/?p=13144>

リサーチマップ：<https://researchmap.jp/jusarang3502>

15:35～ 休 憩

15:45～ 総合討論

16:00～ 閉会挨拶：渡部 昭男

参加呼掛け：科研費で寄稿をお願いした両国の研究者による ZOOM 集会

（日本教育学会、日本教育行政学会、日本教育法学会、大学評価学会などに企画を案内）

照 会 先：渡部昭男 awtnb2188@gmail.com（参加無料／要事前登録）

事 前 登 録：Google フォーム申込書 <https://forms.gle/5ioNQvVnr7enpESd6>

備 考：Kernel にアップしている論考をベースに意見交換する形で共同研究を深めたい。
科研費研究は広く一般に成果を還元することが求められており、当日資料と ZOOM 録画を神戸大学学術成果リポジトリ Kernel にアップし公開する。